

# 仙台教区報

発行所カトリック仙台司教区事務所  
980 仙台市本町一丁目2番12号  
電話〇二二二二二二一七三七七一番  
編集・発行人 首藤 正義

## 信徒養成をめぐって

### 第11回仙台、浦和、新潟三教区合同司教研修会

2年に1度の三教区合同司教研修会が10月29日から31日まで、那須で開かれた。参加者は72人（仙台27、浦和30、新潟15）で、宣教会・修道会からの参加人数に比べ、教区司祭の数は司教を除いて15人であった。

今回は「信徒の養成」がメインテーマで、サブテーマは4つあった。①日曜日の集会②祈りとその養成③信徒の霊性④勉強と体験  
開会の挨拶の中で、島本司教（浦和）はメインテーマに触れて次のように語った。  
「この司祭集会は互いに学び合う場であり、同時に三教区の司祭同士の、司祭的兄弟愛を

深める場でもある。『信徒養成』がテーマに選ばれた理由は三つある。司教団の発表した基本方針とホンコン会議における教皇のメッセージとアドリミナでの教皇のことば。基本方針で、信徒一人ひとりが宣教師であり、一人ひとりを大切にしていこうという教会の歩むべき道を日本の教会は明らかにした。その実現のためには、信徒の参加が是非とも必要なのである。一九八三年のアジア信徒のホンコン会議で次のような教皇メッセージがあった。『信徒の養成を教区の司牧養成の最優先課題とすることを求める。アドリミナで教皇は、『司教団発表の基本方針と優先課題に期待をかけている』と司教団に言われた。』

司教座移転50周年記念  
仙台教区大会  
メインテーマ  
「明日の教会を  
めざして」

期日：昭和61年9月14日(日)・15日(月)  
場所：仙台白百合学園



研修会は分科会が中心で、分科会のみでの発表という全体集会はなかった。各分科会は各教区が担当し準備した。  
仙台教区は「勉強と体験」を持ち、大阪の堺教会のロベルト・グーゼンス師（スクート会）を招き、「信徒養成」のプログラムと、その体験を紹介してもらった。

グーゼンス師は最初に、なぜ信徒を養成するのかを明確にしておく必要性を強調された。「信徒が教会の中で神父と共に天国のために働くのは、洗礼・堅信を受けることによって主とつながっているものだからである。教会の方針が変わったからとか、神父の人数が少なくなり召命も少なくなつたから、というのは本当の動機ではない。」  
同師は、堺教会での実践を通じて、信徒養成がどうなっているのか、その体験を話された。司牧の現場からの提言は大いに得るものがあった。特に教会委員会のあり方、聖書研究会、教会学校リーダーの集まり、初聖体の準備等について。

### 司教様の日程

- 11月22～23日 青年の集い（光ヶ丘研修所）
- 24日 元寺小路教会堅信
- 25～26日 教区司祭団月例会（仙台）
- 27日 社会福祉法人理事会（仙台）
- 28日 常任司教委員会（東京）
- 29日 財務特別委員会（東京）
- 30日 ノートルダム教育修道会列聖祝賀会（東京）
- 12月2日 教区司祭団役員会（仙台）
- 5日 宮宗連報編集会議（仙台）
- 8日 善き牧者修道会来日50周年記念
- 9日 教区司祭団月例会
- 16日 スペルマン病院創立30周年記念
- 17～20日 司教会議（東京）
- 25日 降誕祭（元寺小路）



お別れのミサ

小林有方司教様 11月10日離仙

前教区長として31年間に亘って仙台教区を導いてくださった、小林有方司教(76歳) 司式によるカテドラルでの最後のミサが10月27日、午前9時30分より元寺小路教会聖堂で横島、板垣両師と共に捧げられた。当日は小林司教最後のミサということで元寺小路教会外からも多数の信徒が参列し、同司教との別れを惜しんだ。

小林司教は説教の中で、当日の福音(マルコ10・46/52)を引用しながら、盲人のこじきの信仰の強さにふれ、①苦しみの中にあつてこそ信仰の証しがあること②神から愛されていることはありがたいことであると同時に責任の重く、きびしいこともあること③命をかけて神の愛に応えなければならぬことを強く訴えられた。

ミサ後、午前11時30分より割烹秀で元寺小路教会の信徒50名が送別会を催し、同司教との思い出話に花をさかせた。

祝金(60,630) 階級祭司教小林様 收支報告

教区司祭団役員会

収入		支出	
小教区	950.900	記念品	300.000
宜教会	70.000	会食(八百衆)	200.000
教育福祉施設	755.000	祝賀パーティー	1.492.240
修道院	310.000	会場準備費	50.000
司祭個人	450.000	生花	44.682
	5.000	印刷	40.000
		新聞広告	120.000
		引越費用の一部	8.250
			285.728
計	2.540.900	計	2.540.900
	(1985.9.30現在)		

来日二十五周年を祝う

オタワ愛徳修道女会

オタワ愛徳修道女会では、10月10日、来日25周年を祝い記念式典を、バチカン大使ウイリアム・アクイン・カルー大司教、佐藤千敬仙台司教、佐藤敬一新潟司教臨席のもとに挙行した。

この日は、同会ゆかりの司祭、修道女、恩人ら多数が出席し、共同ミサに参加して神の導きに感謝した。

一九六〇年9月9日、オタワ本部修道院より3人の姉妹が来日、そのうちの一人シスターモニック・グレは、現在東仙台修道院で子ども達に英会話を教え元気に活躍している。

同会は現在、東仙台の他、八木山と山形市に修道院があり、修道会としての事業は持たず、教会の要請に応じて、病院、老人ホーム、養護施設などに会員を派遣し、又、所属する小教区教会の司牧活動にも参加しつつ、みことばを宣教している。

創立20周年 新園舎落成 角田カトリック幼稚園

秋晴れに恵まれた11月4日、新園舎落成式が創立20周年記念と合わせて行われた。

記念式典の中で齋藤石雄神父(理事長代理)は、創立当時のことを、児山六七男神父の苦勞談を交え、また、カトリック幼児教育について、体験から話された。

当日、木村設計工房、青山建設㈱への感謝

状が贈られ、また勤続12年の齋藤祐子さん、11年の秋葉優美子さんの表彰も行われた。

新オールの舞台に並んだ年長児60数名全員がこの日のため練習していた「喜びのことば」をのべ、園歌「オアシスカトリック」を元気に斉唱した。祝賀会は、岩橋淳一神父(中央協)の音頭につづいて、木村恵理さんの演奏を聴きながら歓談が進んだ。

来賓は、速くは青森、鎌倉、東京、そして県内外の方が臨席された。

11月中は、卒園者を招待し新園舎の披露、記念誌の贈呈など計画している。

尚、園長の高田徳明師は巨理カトリック幼稚園の園長も兼ね、角田・巨理・岩沼の地の宣教司牧に励みながら、「21世紀に向かつて子供たちの幸せのために今後も頑張りたい」と語っていた。

聖ウルスラ修道会

塩町修道院の新築なる

去る9月16日、聖ウルスラ修道会の八戸・塩町修道院の新築落成式が行なわれた。当修道院は塩町教会に隣接し、歴代の主任・助任司祭が駆けつけ、司祭13人を含む75人程の人々

がその落成を祝った。鉄筋2階建11坪の修道院に7人のシスターが学校・病院・センターでそれぞれ宣教司牧に当たっている。

「装いを新たにした修道院として今後、個人的に祈りたい人のための『祈りの場』として修道院を信者の皆様が用いていただければ」と、フルニエ院長は語っている。



192 センチからの日本の眺め (2)

につぼん人の時間感覚

村首ステファノ

日本人は勤勉である。時間を非常に大事にする、汽車の時刻が全世界で珍しい程正確である、と言われる。

しかし一方では「仙台時間」といふ言葉があつて、10分、15分遅れても平気である。ある地方では時刻を決めないで、「今晚〇〇さんの家で集まりがある」といふ。時刻を決めなくても結局のところ皆が集まつてからしか始まらない。従つて前もつて7時になるか8時になるか誰にもわからない。

又、日本人は皆いつも忙しい。そうでなければ恥ずかしいことだと思つてゐる。全然忙しくない人でも忙しいと言ふ。休みをとることに對し、何か申し訳ない気持があるのではないか。朝から晩まで働くことが男の誇りと思つてゐる。日曜日、休む人に対して、「良い身分だな」と言ふ。自分もそうしたいという気持より、自分は本もので相手はなまぬるいという感じをもつてゐるのでは。

田舎の場合、日曜日に教会へ行くのは辛いことである。なぜなら、教会へ行くヒマがあると思われから辛い。「また教会ツスカ」とも言われる。よほどヒマがあると思われ。日本の歴史を見るに毎週日曜日に休むという伝統はない。キリスト教から来るもので、明治維新から100年程かかつて、やつと習慣になりつつあるものの、まだまだ……

人間にとつて無駄な時間は必要である。仕事をしない時間、他人のことを考える時間、夫婦の場合ゆつくり理由なしにお互いおしゃべりする時間、親子の場合も。

このことに関して、ベルギーでのことであるが二つのことを今でもよく憶えてゐる。

私の両親のことであるが、父は外で働いてゐた。母は夕方は食事の準備で忙しかつたはずである。それでも父が家に帰つて来ると、母は仕事を全部そのままにして、父と庭に出て歩きながらおしゃべりしてゐた。15分、時には30分。子供ながら私たちは遠慮した。なんとなく、お父さんとお母さんの時間だと思つた。何か聞きたいことがあれば待ちましよう。両親も互いに一日の出来事を話してゐたのでは。その話しの中に私たちのこともあつたはず。両親のその姿を見て、この時間は二人にとつて非常に大事な時間だと感じた。それはずっと25年間も続いた。

又、私が小さかつた時のことである。父が帰つてくる前に私達子供はふるふり入り、父が帰つてくるまで静かな時を持つた。その時、あべれたりしてはいけなかつた。静かに母と話しをしたり、本を読んだりする時であつた。実に貴重な時であつた。

このような時間は自然に出来るものではない。ひとはそれを無理にでも作らなければならぬ。私たちは自分の仕事、していること考へてゐることを少し休んで、人間同士、友達、親子、夫婦の間で相手を中心にして、相手の話しを聞く時間を作る必要があるのでは。

再びアフリカ難民救済街頭募金

昨年に引き続き、募金活動が仙台で、11月末からクリスマス前の22日までの各日曜日に行なわれる。主催は仙塩8教会アフリカ難民救済キャンペーンチーム(代表・氏家昭氏、指導司祭・横島健二師)。問い合わせは、元寺小路教会(0222-2215507)へ。

祈つていきます

メキシコのみなさんのために

………吾妻 真知子(郡山ザベリオ学園小学校)………

メキシコでは、九月十九日に地しんがありましたね。とても大きな地しんでした。その地しんで、たくさんの人々が、けがをしたり死んだりしました。私達は、そんなメキシコの人々をたすけてあげたいな、と思ひ、みんな、何度も学級会を開いて、話し合いました。私達は、みんなではい品回収をしよう、ということに決めました。そして、そのお金の一部をメキシコにおくることにしました。それから、先生方が、バザーをやつて、集まつたお金の一部も、おくるように決めてくださいました。このお金を、メキシコのみなさんの役に立ててください。少しでも、多くの人々がたすかるといいなと思ひます。それから、深く悲しんでいる人が、はやく立ちなおれるように、おいのりしています。

メキシコ地震災害援助義捐金は11月13日現在、金七四六八〇八一円、仙台教区内から寄せられました。(教区会計)

## II 講演 II

### 統一教会はキリスト教か？

浅見 定雄

去る10月16日、元寺小路教会で浅見定雄氏（東北学院大助教授）の講演「統一教会はキリスト教か」が行なわれた。参加者120余名は、統一教会の実体、熱動的に若者を繰り込んでいく多面的な布教活動、そこから起こってくる諸問題について考えさせられた。

#### 統一教会とは…

「名称」：世界基督教統一神霊教会（統一教会）は、一九五四年韓国で文鮮明師によって創始。一九五九年日本本部設立。その時の信者4人。その後、「全国大学原理研究会」（新聞報道で26大学で会員5千人。総務部長の説明が2千人）を設置、急進展を見せた。「親戚かせの『原理運動』学生間に広がる、学業放棄や家出」と朝日新聞がその第一報を報じたのが42年。学生運動が盛りあがりつつあった当時、街頭で反共を説いたのが、原理運動の学生たちである。更に丁度その頃から統一教会を母体としている政治団体、勝共連合が活動を開始している。「自治省が9月公表した政治資金収支報告書では、前年より大幅に収入を増やし、上位25位の政治団体中11位に入っている。」活動名称は、前述の外、平和と統一のための連盟、世界平和教授アカデミーなど様々な名乗るが、宣伝、資金集め、信者獲得のためであり根は一つである。

「資金」：(A)訪問販売がある。茶、朝鮮人参、海産物、化粧品、印鑑、つぼなど。例：幸福になるといふ大理石のつぼ、鑑定によると五、六千円の物を二百万から三百万円で売ると。

(B)原理名を出さずに、ベトナム難民などの救援カンパと称しての募金。若者向けのフォーキング会、ディスコなどによる収益は全国で一日一億円と言われている。

「誓い」：文師夫妻を「父母」と見なし、生涯の「献身」を誓うといわれる合同結婚式（カップルの組合せも文師の指導によるといわれている）は、組織の強化と団結がねらいであることは言うまでもないが、布教活動に専念させられるため高年齢まで待たされるケースも多い。

「生い立ち」：文鮮明師は、一九二〇年北鮮に生まれ、京城商工実務学校に学ぶ。22歳の頃、S氏からキリスト教を教えられているがその時はクリスチャンではない。本名が文龍明、改名して文鮮明。一九五四年朝鮮戦争直後、社会秩序こう乱罪で実刑五年の判決。一九八二年ニューヨーク米連邦地裁で脱税で実刑が言い渡されている。

「聖典」：統一教会の人々は、旧・新約聖書を持ち、「聖書を原理の基準とする」と表明きは述べるが、救いの完成は文師によって遂げられるとする教えが本旨で、聖書の思想とは根本的に相容れない「原理講論」を実質的には聖典としている。

「使命観」：統一教会に入る若者は素直、まじめ、真剣。彼らは、早く救主なる文師を

世界の王にしないと、ハルマゲドンの第三次大戦となり、人類は核兵器で全滅すると信じ、「我々こそは全人類を救う騎士」と使命観に徹している。

「現在」：子どもが信者になったための家庭内のトラブルや、親の反対運動、活動の禁止を打ち出した大学もあり、信者の増加率はそう高くない。仙台の常時集会に参加する人々は50人余り、東北大原研究生は10余名である。

#### 統一教会に対する対応

キリスト教各派の見方：韓国キリスト教協議会はキリスト教として認めていない。日本プロテスタント教会は一九七九年「キリスト教として認めない」旨を再確認している。日本カトリック教会は一九八五年司教団声明を発表、「キリスト教、キリスト教一致運動としてのエキュメニズムの対象にもなりえない」と明確に宣言している。

「祈り」：私たちクリスチャンは、まず自分で前述のような実態や活動を認識し、その上で、知らないがゆえに陥り、活動を続けている若者のために、祈り、実態を語り伝え教え導いていく必要がある。これが私たちの使命である。（元寺小路教会広報部）

【編集後記】 毎月1日発行にもかかわらず、いつも月半ばを過ぎてしまう。ある神父さんから、「一か月ズラしてみたらどうですか」と言われた。確かにそうであるが、たとえ遅れても必ず毎月一度、発行するという線はくずしたくない。日時を変えてもまた遅れてしまうのではという不安もある…（首）